

「地域とともに歩み、地域で育ち、地域に必要とされる ゆり支援学校」

令和2年度がスタートしました。新型コロナウイルスの影響によって、ゆり支援学校の4月の授業日は、16日の始業式から18日の入学式までの3日間だけでした。3月から続く長い休業期間は、子どもたちにとってはもちろん、教職員にとっても、初めての経験です。3日間だけではありましたが、満開の校庭の桜と、1ヶ月半ぶりに登校した子どもたちの笑顔で、学校に明るさが戻ってきました。子どもたちの笑顔あふれる学校が、こんなにも素敵なものだ、あらためて感じたところです。5月11日から、再び子どもたちの笑顔があふれる学校が始まりました。



今、子どもたちは、見えないウイルスに感染しないように気をつけながら、

「いつになったら、いつも通りの生活ができるのだろうか。いつかまた、学校が休みになってしまうのだろうか。」と、もやもやした気持ちで毎日をすごしていることでしょう。子どもたちだけではなく、社会全体が、新型コロナウイルスという病原体とともに、この状況がいつまで続くのかという、先の見えない不安と闘っています。

感染拡大防止のために、多くの人が集まる機会を減らそうと、様々な会合や大会などが中止され、観光地などでは集まる場所自体を作らないように、多くの取組がされています。学校の臨時休業もその一つですし、本校でも、たくさんの人が集まる「運動会」などの行事、「PTA総会」などのほか、地域の皆さんと交流する活動も、当面の間は中止としています。しかし、単に中止してしまうのではなく、別の方法や内容を考え、本来の目的を達成しなければなりません。

本校の目指す「地域とともに歩み、地域で育ち、地域に必要とされる ゆり支援学校」は、学校だけで到達できるものではありません。地域の皆さんと一緒に活動することが最も効果的であり、その活動を通じて子どもたちが育ち、地域の皆さんに理解していただくことにもつながります。いつも通りのことができない状況ですが、こんな時でもできること、こんな時だからこそやらなければならないことを考え、実践していかなければなりません。

今の様々な状況を、「単純に制限されている状況」と捉え、じっと待つのではなく、「いつも通り」を見直し、本当にやるべきことを見つけ出すチャンスと考えてみたいと思います。そして、本当の意味で「地域に必要とされる学校」を目指していきたいと考えています。

令和2年5月 校長 高橋 譲